

「大切にする」会社、
大谷清運。



「大切にしている」会社、大谷清運。



Re に対する思い

「存在価値の『再』定義が新たな価値を創造する」と言われます。

常に環境に配慮した視点を持ち、今ある環境をさらにより良いものにして、次世代に繋げていく。



そのために、私たちは、生業である今までの廃棄物処理の在り方を常に見つめ直してきました。

廃棄物の中から資源を生み出し、新しい価値を創造していく—RE-BORN、新たなライフスタイルを提案する— Re・Slim これからも、私たちは現状に満足せず、常に見直し（Re-Think）しながら、成長します。



お客様や地域の皆様にとっていかにあるべきか、「Re」のためのトータルアドバイスができる企業」へそして皆様に「選んでいただける企業」でありたい。



“心を込めて愛ある丁寧な仕事”を念頭に、人、モノ、そしてすべてのつながりを「大切にしている」ことが、基本であると考えています。

「大切にしている」会社、大谷清運。



大谷清運株式会社は、2017年5月18日付で国連グローバル・コンパクトの署名承認をいただきました。CSR活動に積極的に取り組む上で、国連の提唱する「グローバル・コンパクト10原則」を中心に責任ある行動を実践していきます。

目次	未来対談 ごみになる前に、良いモノと関わることを大切にしたい…………… P4
	ステークホルダーからのメッセージ 「つながり」を大切にしてきた。それは、これからも続いていく…………… P6

大谷清運が大切にしていること



「信用と信頼」を大切にしている
経営理念／事業内容…………… P8
オータニ・クレド・ダイヤモンドで「仕事にプライドを持つ」…………… P9
「大切にしている」ためのマネジメントシステムを維持・運用…………… P9



「地球と地域」を大切にしている
活かせるものは出来る限り再び（Re）資源にする…………… P10
地域の皆様に必要とされる存在になりたい…………… P11



「人と職場」を大切にしている
褒め愛ポスト／感謝力の向上によりお互いを尊重…………… P12
施設外就労／皆が笑顔で仕事ができる…………… P12



Gマーク制度認定／Gマーク制度の安全性優良事業所に認定…………… P13
研修・教育…………… P13

2016年度 主な実績…………… P14
本レポート企画に参加して

第三者からの評価コメント…………… P15

ごみになる前に、 良いモノと関わることを大切にしてほしい。



「ここで働いてきて良かったな」と 社員に思われる会社に

小菅：今回の編集方針は「大切にする」と伺っております。社長が今回、グローバルコンパクトの原則でそれぞれ大切にしていることはありますか。

二木：私は子供の頃から、初代社長の父に「1人の従業員がいたらその肩には奥さんと子供、ご両親など何倍もの人の生活がかかっているんだよ」と言われていました。

大谷清運は、私が入社する前からすごく人を大切にしている、働いている従業員を大事にする土壌ができておりました。これが、私にとっての“人権”の原点ですね。

私は大谷清運に入社前10年間、違う会社に勤めておりました。その中で会社の仕組みや、人と人の関わりについて勉強し、入社いたしました。

会社はお金を稼ぐところだけでも自分を成長させる場所でもあると思っています。仕事をしていながら色々なスキルを身に付け、人との関わりで人間性を磨き、そして仕事を通して自分が成長していくべきと思っています。

私は常にスタッフに言っているんですが、自分が死ぬときにこの会社で働いていて良かったなと思っていただきたい、そういう会社でありたい、それは自分が成長することができ、仕事だけではなく家庭でも充実できたと思っただけの会社でありたい、またしていかなければならないと強く思っているからです。

それがわたしの考えるよりよい労働環境であり、各々が育つ環境にしていくために尽力し続けていると自負しています。

リサイクルプラントRE-BORNに対する思い

城戸：御社が本業でも特に関わりが大きい「環境」についてはいかがですか？

二木：ごみが環境に転化した時がありました。それが1992年のリオで開かれた地球サミットだと考えています。

丁度私が前職を辞めて大谷清運に入ったのとほとんど同じタイミングで、以前からごみになる前の「モノ」に興味がありました。リオのサミットから、環境への強い意識でこの業界が進もうとしているのを肌で感じ、自分自身も弊社も「環境に配慮した」という、この切り口で行くべきと強く感じました。

昭和37年の創業から清掃工場や処分場に廃棄物を運ぶのが中核事業でした。しかし、環境への強い意識が進むとしたら、使わない・需要されない廃棄物を運ぶ仕事だけではなく、資源として活かす道を切り開かねばならないと考えました。

そこで、2000年に先代社長と共に足立区に中間処理の工場を作りました。再生できる中間処理のごみを破壊して、前処理ではなく資源化のための施設にしたい、活かせるものは資源として生かしたい。だから、リサイクルプラント「RE-BORN」(再生)というネーミングにしました。

これが大谷清運の大きな環境への取り組みで、本業自体が環境分野と密接に関わっている為、力を入れております。

地球環境を守る、正義の味方！

小菅：そのような取り組みを続けていくには理念や方針、そしてコンプライアンスも大切ですよ？

二木：私が入社した頃、弊社は企業理念も存在しない、50人程度の小さな会社でした。会社のロゴマークもなかったし、社内会議もなかった。

だから私は、前職で学んだ会社の動きや仕組みを大谷清運に取り入れる行動をおこしました。まず企業理念を作りました。その企業理念をもっと深めていこうと思い、50周年の節目に、より事業に直結した経営理念を作成いたしました。

他に作成したのはクレド(信条)ですね。弊社で働く以上は環境を守る、地球環境を守る、正義の味方であって欲しい。普通にごみの仕事をしているとやりがいがないって思うかもしれないけれど地球を守る、ヒーローだと伝えたかった。それで誕生したのがOTANIマンです。

OTANIマンを作って、「みなさんOTANIマンとして働いているのですよ、だから心根も優しく行動していきましょう」などの思いを、OTANIクレドダイヤモンドに重ね合わせました。使命を与える、ミッションを与えてそれがクレド。弊社で働くみんなにプライドを持っただけです。



「迷惑施設」というイメージを払拭 喜んでいただける施設に

城戸：先程のお話で2000年に足立区入谷に作った中間処理施設RE-BORNの話が出てきましたが、住民の方から反対があって建設の際にご苦労されたと伺いました。地域の方と信頼を得て共に共存していくために大切にしていることをお聞かせ下さい。

二木：産業廃棄物の処理をする工場は必要ですが、「なんでここなの？」と思われ、煙たがられてしまいやすい施設です。そのため、来てくれて良かったと思われる存在になろうと思いました。

足立区には30~40社位の産業廃棄物の処理、中間処理施設がありますが、その中でトップの企業であり模範的な存在となることを目指しました。

近隣住民の方に騒音や臭気などでご迷惑をかけることはもちろんのこと、地域の盆踊りに協力したり、こども祭りを主催したりして、地域の皆様との繋がりを大切にしていまいりました。ご理解下さっている地域住民の皆様本当にいつも感謝いたしております。

また、大谷清運では障がい者雇用にも力を入れております。働ける場所が少ない障がいを持つ方やそのご家族に喜んでいただける機会を提供したく、障がい者の方と弊社が共に働ける環境を用意しました。そこには、RE-BORNを迷惑施設と思われる施設ではなく、できてよかった、来てよかったと思われる施設にしたかったという思いもありました。

現在、雇用率は4%と高い数値であり、東京都障がい者雇用優良企業にも選ばれております。

城戸・小菅：4%！すごく高いですね。

創業55周年の本年。 さあ、100年企業へ――

小菅：今年55周年を迎え、創業100年に向けての目標をお聞かせいただきたいです。

二木：確実なことは、過去を見ても何も参考にならないということ、また、低炭素社会実現のために貢献できる事業展開をしていきたいということ。その第一歩として、CSR報告書を発行し、自分たちがCO2をどのくらい排出しているか、事業活動内容などの見える化・視点を持

つことができれば、会社全体で大きく前進できると考えています。

人は環境に生きているし、環境は人が作っています。環境を壊すことも守ることもできるのは人ですから、低炭素社会の実現だけでなく、これらを守るために他にもできることがあるかもしれません。

1993年、先代に了解してもらい、文京区にRe・Slimという、前職でパンフレットや会報誌等を制作する企画デザインの仕事をしてきた経験を生かせる企画事業部を作りました。モノとの関わりをRe・Slim(造語で、「再びスリムに」)する事業部です。

ごみになる前にモノと関わることを大切にしてほしい、良いモノを選択し、そのモノを大事に、大切にしてほしい。それはどんなものを選ぶか、使い捨てるものなのか本当に気に入って修理が効くものを買ってずっと長くそのものと一緒に暮らすか、など、良いモノとの関わりを推進したいという思いが強いです。

その思いから、片づけサービスのパッケージ商品が生まれました。これは生きているうちにモノをもう一度見つめて、モノとの関係をスッキリさせて、亡くなるまでスペースが十分あるところで心豊かに過ごすことを推進している商品です。

人とモノの関係は絶対なくならないと思うので、そこをさらに商品化するなど事業展開していくことが、ごみではない人とモノ、さらに環境に関して100年に向けた目標です。

今回発行するCSR報告書を通して環境に密接に関わっているだけでなく、人も大切にしている大谷清運をみなさんにお伝え出来ればと思っております。



「つながり」を大切にしてきた。 それは、これからも続いていく。

日頃からお世話になっているステークホルダーのみなさまに大谷清運についての3つの質問におこたえいただきました。



熊木義男 氏
株式会社ニュー・オータニ
ファシリティマネジメント部長

① 貴社とは、開業から長きに渡りホテルの廃棄物処理で大変お世話になっております。ホテルは装置産業であるため、常に毎年改修工事や補修が行われ、その都度不要となる什器物品の処分など発生します。

その都度御社のスタッフの方々は、重たい物や汚れた物でも、いやな顔を見せず暑い夏も寒い冬も一生懸命汗を流しながら働き、笑顔で挨拶してくれます。そのような姿勢でいつも貴社のスタッフの皆さんの働きにはいつも頭が下がる思いで大変感謝しています。

また、当社の環境に対するRエコノミーの方針に共感いただき、食品残渣リサイクル事業において、コンポスト導入段階から様々な面で全面協力を頂き、いろいろな出荷先農家や行政機関にも同行いただいたり、今日の安定的な事業確立まで、これまで大変な苦勞を共に致しましたが、今では、とても良い思い出となっています。

② 一般的な廃棄物処理業者いわゆる産廃業者のイメージは、決して良いイメージをもたれないところが少なくないと思いますが、貴社は、資源を大切にRe、リサイクルに対する思い、廃棄物をふたたび資源として世に再生させることに重きをおかれており、当社のRエコノミーの思想とも合致し、これまでパートナーとして友好な関係を築いてきました。ゆえに廃棄物処理

① 大谷清運とのご関係、お仕事上での思い出等をお聞かせください。

② 大谷清運という会社の特徴とは、どの様な点であると思われますか？

③ 大谷清運への期待（要望）を是非、お願いします！

もそうですが、現在弊社で実施している外来者向けの環境ツアーで配布している「ホテルニューオータニエコガイド」は、大谷清運の企画事業部であるRe・Slimの担当者の提案がなければ世に出ることはなかったと思います。その後弊社の環境活動におけるパンフレットや啓蒙用のポスター作りなど環境PRの広報活動に不可欠なツールの制作にも全面的な協力を頂いております。

大谷清運様は、単に廃棄物処理清掃会社の枠を超えてReの思想を強く打ち出されているからこそ、当社の取引先として、環境対策に力を注がれ、お客様の要望を全力で答えようとされているところが大きな魅力を生み、長く取引させて頂いている点だと思います。

③ 当社ももちろんですが、これからパフォーマンスを上げて仕事をしていくためには、3Kの悪しきイメージを払拭して、いかに若い世代のスタッフを仲間に加え、育てていけるかが事業存続のカギになってくると思います。当社は、1964年の東京オリンピック開催を機に、世界中から来日される人々を受け入れる宿泊施設として開業し、今度の2020年にもう一度開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、当時不慣れであったホテル運営もオリンピックの経験により立派に成長させていただいた恩返しのおもてなしをスタッフ一同のスローガンとして、ふたたび世界中の人々をお迎えすべく日々成長に取り組んでいます。

2020年環境オリンピックとしての成功に第一線で全面協力するには、貴社の協力なくてはなりません。

貴社の顧客ニーズに応えようとする姿勢と会社理念を共に若いスタッフの育成に繋げ未来永劫まで相乗発展していきたいと思っておりますので、引き続き万全のご協力をお願いします。



JFE環境株式会社
代表取締役社長
櫻井 雅昭 氏

① 二木社長と初めてお会いしたとき、とても好奇心旺盛で研究熱心な方と感じたのが第一印象でした。

弊社パシフィコ事業部はパシフィコ横浜（株）横浜国際平和会議場様に、大谷清運様はホテルニューオータニに常駐し、廃棄物の一元管理を行っているという共通点があります。このため、お互いの施設を視察し情報交換を行っております。

施設の視察に伺った際、社長はじめスタッフの方々の廃棄物処理の考え方や、取り組みに関して、とても誠実で丁寧な仕事を心がけていると感じました。大谷清運様の再生品の品質が高いのは、日ごろのこうした姿勢があつてのものと改めて感心したのを覚えております。今後も、両者発展のために、

継続的に情報交換を続けていきたいと存じます。
② 常に、廃棄物処理の在り方を見直しながら環境問題に配慮し、より良い環境を次世代につなげていくために努力を惜しまない会社。

また、人や物など全ての繋がりの大切さをとても大事にし続けていること。

③ 地球環境を守る一企業として、更なる発展と、大谷清運様の資源循環の考え方を広く発信し続けてほしいと思います。

また、現業の人やスタッフへの分別指導の方法等、新しい取り組みや発見があつた際には是非弊社にもご教授いただきたく存じます。

① 経済課に所属していた5年ほど前、中小企業家の皆様に区の取り組みをお話する機会があり、初めて大谷清運株式会社のお名前を聞いたのは、そのときの二木社長のご講演でした。

平成28年にダイバーシティ推進担当としてお会いした際には、大谷清運株式会社の沿革、従業員の方々とのコミュニケーションや地域への働きかけなどをご講演いただきました。自社内に止まらず、他の企業や行政と共により良い会社を目指して日々研究され、実践している会社だと感じています。

② 社報に掲載されている社員の皆さんの笑顔が素晴らしく、皆が働きやすく、働き甲斐のある会社であると感じます。各種認証等の取得や企業内研修にも積極的に取り組まれ、また会社のキャラクター OTANI マン&OTANI エンジェルには、男女ともに活躍できるチャレンジ精神溢れる企業風土を感じ

ます。

③ 環境美化、改善や省エネルギー、リサイクル、エコロジーなど、これからどんなに社会が変わっても、今後ますます重要となる可能性に溢れた業界になり、地域の方を招いてのおまつりや、代表者や役員が女性であることなど、業界全体の変革を牽引する役割を担われていると感じます。

これからも、親しみやすく地域に愛される会社として、また支社が所在する文京区へのご協力も引き続きよろしく願っています。



文京区役所総務部
ダイバーシティ推進担当課長
瀬尾 かわり 氏



スックリ・ラボ (代表) 小松 易 氏

① 職場環境整備活動の推進のお手伝いをさせていただいております。当初は社員も実施に半信半疑だった月一度の「環境整備 DAY」の清掃活動で、ある社員が「近隣の方から『いつもご苦勞さま』と声を掛けていただいていた嬉しかった。」と笑顔で

発表していたことを昨日のこのように覚えています。あれから10年以上に渡り、この活動を通して社員の皆様の進化に立ち会えることを嬉しく思っています。

② 先代から引き継がれる「懐の広さ」、「人のやさしさ」、そして「丁寧な仕事」を行う精神が一人一人の社員に浸透していることです。

③ これからも「環境整備活動」を継続し、自らの足元をスッキリ整えながら、ますます事業を発展させてください！



東京都立水元小小学園
就業技術科 進路指導部
中川 武 先生

① 3年前、ハローワーク墨田障害者雇用担当から貴社をご紹介いただきました。知的障害の生徒の現場実習の受け入れをしていただきました。それ以来、リサイクルプラント RE-BORNでの分別ライン作業、本社でのデータ入力事務補助など就業体験、現場実習を受け入れていただいております。生徒ひとりひとり社会経験は未熟ではありますが、貴社の皆様に温かく見守っていただいております。

② 貴社に就業体験や現場実習を行った生徒ひとりひとりが力を発揮できているのも、社員の方々、お一人お一人のお人柄がよく、ともに職場の雰囲気、そのようにさせているのだと感じます。

③ 貴社での就業体験、現場実習を通し、私たちが勉強させていただいております。これまで同様、引き続きよろしく願っています。



腐敗防止

「信用と信頼」を大切に

経営理念

私たち大谷清運のスタッフ

II

OTANIマン&OTANIエンジェルは
人と地球にやさしい資源循環型社会の実現に貢献します。

私たちは“Re”の為の提案を通して、当社に関わる全ての人々に安心と幸福、そして利益をもたらす「真心込めて愛ある丁寧な仕事」を提供します。

Reの為の提案

「Re・Slim」、「RE-BORN」、Reduce、Reuse、Recycle、Reform、Refresh・・・etc.
“Re”モノとの関係を見直し、自分にとって本当に大切なモノを選択し、そのモノと大切に生活する生活を応援します。



OTANIマン・OTANIエンジェル

大谷清運のクレド（信条）
“OTANI CREDO DIAMOND”
を日々生きる逞しいスタッフ！

事業内容

信頼に応える

運輸事業
Transportation

東京都 23 区の清掃事業からスタートした大谷清運。その 55 年の信頼と実績を誇る輸送部門。

最大限に活かす

処分・リサイクル事業
Recycle
RE-BORN

どんなものも生まれ変わるチャンスがあるものは再生してしまう。それが大谷清運のリサイクルプラント（RE-BORN）です。

適正に処理する

清掃事業
Cleaning

ビル内の廃棄物と資源物の分別処理作業、適正処理のための運用管理、リサイクルのためのオペレーション。職場や公共施設などの環境を清潔に保つビル清掃作業。

先を読み創作する

企画制作
Planning
Re・Slim

物をたくさん持つことがステータスだった時代を経て、量から質へ変わってきました。生活を再びスリムにしましょうとご提案するリスリム。

オータニ・クレド・ダイヤモンドで「仕事にプライドを持つ」



スタッフ全員が所持しているクレドカード

実務に直結する6つの指針が集まった信条として「オータニ・クレド・ダイヤモンド」を策定し、各部署にクレドトレーナーを配置させています。様々なシチュエーションにクレドを当てはめて、社員ひとり一人が、自主的に行動できるようにクレド委員会が推進役となり取り組んでいます。

クレド委員会は毎月1回、各部署のトレーナーと委員により開かれ、和気あいあいとした温かい雰囲気の中で活発な意見が飛び交います。

そこで決められるのが「今月のクレドキャッチフレーズ」。委員の意見を集めアイデアを出し合って話し合い、キャッチ

フレーズが生まれます。

「今月のクレドキャッチフレーズ」はスタッフ全員に配布し、各部署に掲示します。キャッチフレーズは部署毎に毎朝唱和し、今日も一日プライドを持って仕事に取り組むことをお互いに宣誓しています。

もともと少なかったお客様からのクレームも、この取り組みによってさらにスタッフの意識が高まり、クレームをいただくことがなくなりました。

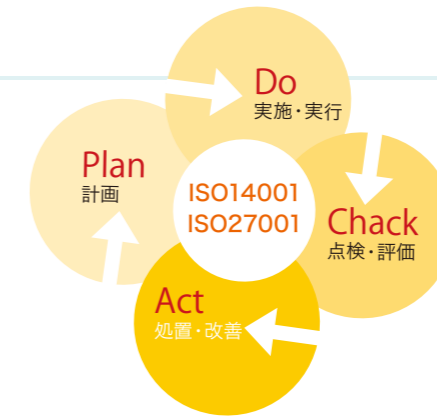
策定から6年が経過したことから、現在、オータニ・クレド・ダイヤモンドをよりよいものにすべく内容の更新・修正の話し合いを進めています。

「大切に」するためのマネジメントシステムを維持・運用

ISOの認証取得

ISO14001（環境）を2002年に、ISO27001（情報セキュリティ）を2011年に取得しました。

RE-BORN2010では機密データの記録されたハードディスクや各種記録メディアを破碎・磁気消去しております。情報セキュリティについての教育もPDCAサイクルのもと定期的に行っています。



■優良産業廃棄物処理業者認定



■産廃エキスパート認証取得



第三者評価制度

優良産業廃棄物処理業者認定制度は、許可基準の厳しい、環境省の定めた基準をクリアした優良な業者が認定されるものです。

産廃エキスパートは、業界のトップランナー的業者であることを認定したもので、いずれも審査項目の中に環境配慮の取り組みをしていることが求められています。



環境

「地球と地域」を大切に



RE-BORN 所長
小川 大介



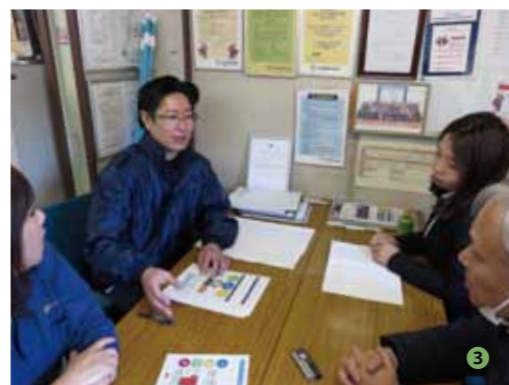
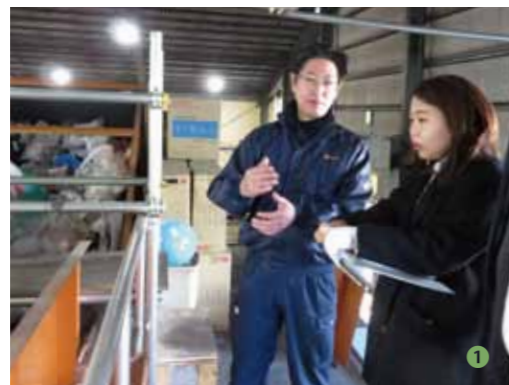
RE-BORN 受付業務
山口 貴子



武蔵野大学環境学科4年
城戸 愛美

環境事業部 RE-BORN インタビュー

活かせるものは
出来る限り
再び (Re) 資源にする



城戸：環境保全について心がけていることはなんですか？

山口：全社で取り組んでいるクレドやブランド委員会等で社員ひとり一人がきちんと自覚を持って行動できるように、日々確認しています。環境についても会社で決めた事を、この工場でもどうしたら持続・発展できるか地道に努めています。

小川：この工場では、日頃使っているペットボトル1本でも無駄にしたいくない、と工場に持ってきて資源として再生するために処分する社員が多くなります。キャップも集めて有効利用しています。まずは廃棄物を扱う私たちが、誇りを持って恥じない自分でありたいと考えています。

城戸：二木社長からも工場の命名についてRE-BORNに込めた思いを伺いました。ここに集められた廃棄物は処理されるだけでなく「再生」されることをテーマにしているとのことですが、どのように再生されるのでしょうか？

小川：ペットボトルは繊維に再生され、ユニフォーム等に生まれ変わります。又、工業用パレットや自動車のシート、詰め替え用の容器、再生ペットボトル等、多岐にわたっています。

また、第二工場の RE-BORN2010 では燃料 (RPF) に再生できる設備も保有しています。

城戸：今後に向けてどのような工場でありたいとお考えですか？

山口：社長も常日頃、社員に話し伝えています、中間の「処理」ではない、「生産」をしたいと言う事を意識して、行動していきたいと考えています。それがこの工場名である「RE-BORN」のテーマなんだと思っています。

小川：RE-BORN2010 で保有する RPF 成形機はその一歩として導入されています。今以上にリサイクル率を上げていくために、リサイクル業界の仲間意識を広げていきたいと思っています。新しい情報交換や共有によって業務の拡大にもつながります。その中で、今までやっていないことを探していく努力を怠っては、環境企業として生き残っていけないという危機感を常に持っています。

①容リプラの選別方法について説明する小川所長。 ②容リプラ圧縮・梱包したペール ③事務所でインタビューを受ける ④施設公開の様子。近所の住民の方々が熱心に工場の説明を聞いてくださいます。 ⑤環境学習に訪れた小学生の皆さん。容リプラを梱包する機械のダイナミックな動きに興味津々に入っています。 ⑥RE-BORN2010 の RPF 製造機 ⑦構内には梱包したペールが並ぶ。

地域の皆様に
必要とされる存在になりたい

城戸：とかく廃棄物処理業は世間の皆様から、環境的に迷惑施設と見られることもあると聞きますが、努力されていることはありますか？

山口：環境学習に力を入れています。人が生活する上でごみは無くならないものですし、単に処理するだけでなく、いかに再生できるのかを私たちは実践しています。その内容を、未来の世代である地元小学生を当社工場に招いて、見て学んでもらう機会を設けています。

小川：地域の皆様に信頼頂くために、工場施設にも環境を配慮した設備を導入しています。音や臭い等については臭気測定や騒音測定を午前午後にわたって行い、オゾン脱臭を 18:00 から翌朝 6:00 まで実施しています。騒音や振動についても耐震マットや壁面には防音素材を使用しており、都内業者でもここまで配慮した工場はないものと自負しています。

城戸：特にRE-BORN2010を建設する際は地域の皆様への信頼を得ることに努力したと伺っています。

小川：年に一度、近隣の皆様をお招きし施設見学説明会を実施しています。RE-BORN2010 に設置している RPF 成形機は廃棄物を新たに原料として再生するテーマを象徴した設備 (右写真) と言えます。

山口：また、日頃より地域・近隣の皆様方のお役にたてるなら、夏のお祭りには 20 名近くの社員が設営などをお手伝いさせて頂いています。近隣にある同業社社員の方も参加されて、力を合わせて設営をしています。

小川：人が生きていく中ではなくならないごみを色々なものに「再生」することで、その先の未来の地球環境、お客様、地域の皆様から、さらに必要とされる会社であり続けたいと思って仕事をしています。



RPF
Refuse Paper & Plastic Fuel の略
プラスチックと古紙を原料にした固形燃料





人権

「人と職場」を大切に

褒め愛ポスト



スタッフお手製!の褒め愛ポスト

感謝力の向上によりお互いを尊重

一緒に働いている他のスタッフの「真心込めて愛ある丁寧な仕事」に気付いた時、褒めたい事柄を書いて投函する「褒め愛ポスト」を設置しています。

毎月、褒め愛カードで掲示板がいっぱいになり、スタッフの色々ないいところに気付かされます。

方針発表会ではたくさん褒められた人に「褒め愛大賞」、たくさん褒めた人には「気づき大賞」が贈られます。

お客様をはじめとした社外の皆様を大切にする前に、まずは社内でも共に働く仲間を尊重する風土を築いています。

施設外就労



皆が笑顔で仕事ができる

企業として必要とされる社会貢献事業として、リサイクルプラント RE-BORNを活用頂いて、わが国ではまだ少ない施設外就労を実施しています。

当初、障がいを持った方を迎える前は社員も意思疎通に少し不安があり、どのように配慮すればよいか等を共有したりしてました。しかしそれも杞憂で、慣れてくると家族のように一緒に働いています。むしろ、集中力、持続力などは教えられる存在であることに気付かされました。

毎月1回の「環境整備 DAY」ではお互いに協力して仕事場の清掃をするほか、お世話になっている地域の方々にも楽しんでいただこうと、きれいな花々を植えたプランターを工場のまわりに設置したり、今では大切な仲間の一員となっています。

民間企業では法定障害者雇用率が2.0%（平成25年4月1日以降）とされていますが、大谷清運では4.02%（平成28年6月現在）となっています。同業社の方や葛飾特別支援学校の研修等も行っており、東京都障害者雇用優良企業として認定を頂きました。

障がいを持つ方に働く喜びを味わってもらい、仕事を通してやりがいのある人生を応援しています。

これからも、障がいを持った方々も共に働く喜びを分かち合える、多様性を強みとした企業として成長できるように取り組んでいきます。



東京都障害者雇用優良企業登録証



労働

Gマーク制度認定

Gマーク制度の安全性優良事業所に認定

平成28年12月、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関である「公益社団法人全日本トラック協会」が実施する「Gマーク制度 安全性優良事業所」の認定を受けました。

これは利用者が、より安全性の高い事業者を選びやすくするとともに、事業者全体の安全性向上に向けて評価・認定する、国土交通省が推進する制度です。

認定における評価については

1. 安全性に対する法令の遵守状況
2. 事故や違反の状況
3. 安全性に対する取り組みの積極性

をテーマに、計38の評価項目が設けられています。100点満点中80点以上の評価など全ての認定要件をクリアした事業所だけが「安全優良事業所」として認定されます。

また、ドライブレコーダーを導入し、運転記録を数値で計測。急ブレーキ、急発信をしていないか等、個々人が意欲的に環境意識を高めるよう努めています。



研修・教育

外部講師による研修や交通安全の研修を毎月実施。作業現場を巡回しての指導も行っています。運行管理者は、通常二年に一度受けることになっている講習を毎年受けることで、より確実な法令改正に対応しています。

外部研修として「7つの習慣セミナー」を平成27・28年度に開催しました。

このセミナーでは“真の成功と幸福に導くのは優れた人格を持って、自分自身の内面から外に働きかけることである”とする考え方をベースに、私的成功的習慣から公的成功的習慣を身に付けることを学んでいきました。全8回のセミナーのうち、第2回から最終日の期間、各部門の参加者で「読書会」というミーティングを行い、仕事やプライベートでの気づきや、そこから学んだ事を話し合い分かち合う事で、更に理解を深めていきました。このセミナーに参加したメンバーが中心となって社内に7つの習慣を広め、その成果を生かしていくことを期待しています。

また、メンタルヘルスやストレスチェック、幹部講習や産業廃棄物の基礎講習、そして6つの各種委員会を通して、持続可能なモチベーションや専門性を高めています。



日々クレドを実践する OTANI MAN



「7つの習慣セミナー」風景



大谷清運の6つの委員会

M S 委員会	安全衛生委員会	コアミーティング	環境整備実行委員会	ブランド戦略委員会	クレド委員会
---------	---------	----------	-----------	-----------	--------



2016 年度 CO₂ 発生量

本社 627t-CO₂ 電気・ガス (4月~1月) 軽油 (5月~2月)
 RE-BORN 110t-CO₂ 電気・ガス (4月~1月) 軽油 (4月~2月)
 RE-BORN2010 78t-CO₂ 電気・ガス (4月~1月) 軽油 (4月~2月)

2016 年度 CO₂ 削減量 (4月~9月)

RE-BORN2010 に搬入された廃棄物を分別してリサイクル (焼却・溶融) することで生成したスラグ、発電により、CO₂ を削減しています。

発電電力量 332,310KWh (1,335 世帯分) ※一般家庭 (30A 契約) が 1 ヶ月使用した場合
 スラグ生成量 47t
 CO₂ 削減量 263t-CO₂

低公害車の導入 平成 27 年度燃費基準達成車をバン (13t) 1 台 / 左 プレス車 2 台 / 中央・右 計 3 台導入しました。



節水パネル製作



毎月 1 回開催している「環境整備 DAY」が 100 回を迎えたことを記念し、節水パネルのイラストとキャッチコピーを社内公募しました。イラスト賞は写真中央 / 田中田加雄さん・祐子ご夫妻、キャッチコピー賞は写真右 / 古田勝さんが選ばれました。製作したパネルは本社駐車場の他、全部署に設置して節水の啓蒙に生かしています。

本レポート企画に参加して



こすげ めい 小管 萌生 武蔵野大学 環境学部 (現工学部) 環境学科 環境学専攻 4 年 (2016 年 3 月現在)

企業は違えど CSR 報告書の協働制作は今年で 3 年目を迎え、過去 2 年間の経験から今回の報告書では貴社のあらゆるステークホルダーを大切に社風や魅力を存分に引き出し、良い報告書ができたこと自負しております。



きど まなみ 城戸 愛美 武蔵野大学 環境学部 (現工学部) 環境学科 環境学専攻 4 年 (2016 年 3 月現在)

大学では環境経営学・CSR を専攻していました。今回この報告書の作成に参加させていただき、CSR 報告書発行に携われただけでなく 4 年間の集大成の成果物を創り上げられたと、とても嬉しく思い、感謝しております。

環境問題に造詣の深い矢内秋生教授、CSR レポートの分析・評価に取り組む学生が運営する「ECO REPORT WAY 21」の方々に、本レポートの評価コメントをいただきました。



55年の歴史と経験が社会に向ける
思いやりと暖かいまなざし

武蔵野大学 工学部 教授 矢内 秋生 氏

研究領域・社会活動歴
 環境文化論、局地気候
 西東京市及び三鷹市環境保全審議会会長、千代田区CES推進協議会クラスII、III部会長、他

高度に発達成熟した産業社会において無くてはならないのが静脈産業です。通常、そこには光が当たらないといわれます。しかし、ここに自ら光り輝く企業があります。光の発信源ならんとしているのが大谷清運株式会社といえるでしょう。

この CSR レポートから、その姿勢は会社内部の隅々にまで行き届いているのはもちろん、取引先企業から地域の住民とのコミュニケーションにまで社員一丸となって取り組んでいることがよくわかります。株式会社ニュー・オータニと理念を共有しつつ、他社の環境啓発活動に多大な影響を与え、環境啓発活動や環境教育の実施、地域社会に溶け込んでゆくボランティア精神など、マルチ・ステークホルダー・プロセスの緻密さは群を抜いていると思われる。

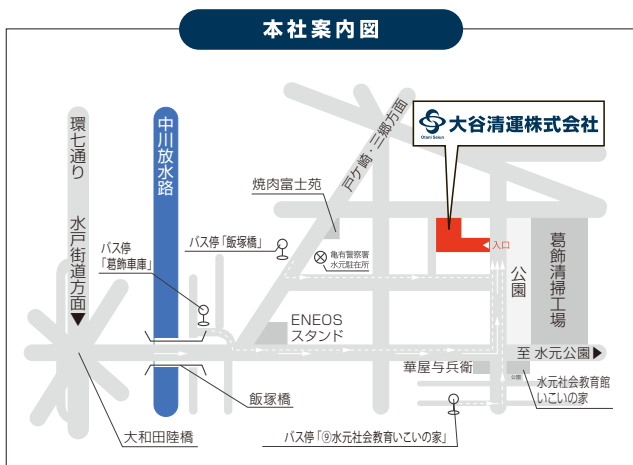
さらに、企業の社会貢献の枠を超えて、これからの高齢社会・縮小社会を見据え、人とモノとの良い関係を「片付けサービスのパッケージ商品」のようにライフスタイルとして提案している先見性にも注目していきたいところです。可能性のあることにはすべてチャレンジしようとする姿勢は何処かベンチャー企業に通じるものの、障がい者雇用率の高さなどに見るように、55 年の歴史と経験が社会に向けるまなざしは、思いやりがあり暖かいことがよくわかります。

企業の社会的責任という考えの背景にある倫理や正義、そしてそれらを緩やかに社会に広げようとする企業姿勢は、この CSR レポート (第一号) の発行によって、大谷清運株式会社の健全さとともに、さらに知れわたっていくと思われる。

ECO REPORT WAY 21 による評価

※ECO REPORT WAY 21 とは——企業が発行する環境・CSR レポートを学生が独自に作成したリクルート視点の「21 の指標」に基づき評価・分析し、企業へ報告・意見交換を行う活動。

評価項目	評価	好意を抱く点	改善を望む点
腐敗防止	2.0	オータニ・クレド・ダイヤモンドの策定より社員一人一人の意識が持つ取り組みをされていて好印象です。策定以来 6 年、毎月一回のクレド委員会実施や「今月のクレドキャッチフレーズ」を設定して全員配布、唱和と言った地道な取り組みが凄いなと思いました。今後も継続して更なる腐敗防止の徹底をしてもらいたいです。	クレドトレーナーの苦労話や今後、こうしていきたいといった声があればより一層良いと考えます。ISO の取得は最近多くの企業が取得しており、業界としては必須ともいえると思います。よって大々的に取り上げるのではなく、当然取得していることさりげなく掲出し、さらに改善を加えている点を強調しても良いと思いました。
環境	2.5	廃棄物処理業は直接環境に関わる業種であり、子供たちの環境教育の学習など企業全体で取り組んでいることは説得力がありました。「日頃使っているペットボトル 1 本でも資源として工場に持ってきて再生するために処分する社員が多くいます」との行動は自らが率先して実行している姿に誇りを持たれていると感じました。	RPF が年間どのくらい再生されているのか、例えば〇〇燃料の何個分と言った分かりやすい表記があると、よりリアルな印象を与えるのではないかと思います。
人権	3.0	障がい者の法定雇用率が基準値よりも大幅に高く素晴らしい。社長インタビューに記載されている「人を大切に」理念が具体的な取り組みの一つとして報告されている点。独自の褒め合いポストの活用は仕事のやりがいに繋がりが良い取り組みだと感じました。	さらに言えば、褒め愛カードの内容については、例としていくつか記載されると分かりやすいと思われます。
労働	2.0	産業廃棄物等を運搬する事業であるにもかかわらず、「G マーク制度 安全性優良事業所」と言った外部評価により安全性を証明している点が秀逸です。ここにも「人を大切に」理念より研修等は大変充実していると感じました。	G マークが全国でどのくらい取得されているマークなのかなどの説明などがあるとより良いと思います。労災数の記載や改善経過等があればさらに説得力が増すのではないのでしょうか。
総合評価	2.4 / 3 点満点	全ての取り組みが PDCA で回っており、持続力が根付いている印象を感じました。紙面についても記事の写真や見出しの文字が大きく、読みやすい構成になっており、産業廃棄物処理の事業とは思えないような報告書であると思います。私たちのような学生をはじめ多くの人が手に取って読んでもらえる報告書だと感じました。創業 55 周年を迎え、国連グローバルコンパクト加盟という新たなスタートをされた御社は、今後、この報告書を新たな一歩として、さらに CSR への取り組みを向上させ、情報発信し続けてほしいと願っています。	



名 称 大谷清運株式会社

所 在 地 本 社

〒125-0032 東京都葛飾区水元 1-3-13
TEL. 03-3600-5561 (代表) FAX. 03-3600-5563
E-mail. info@otaniseiun.com

リサイクルプラント RE-BORN

〒121-0836 東京都足立区入谷 9-4-13
TEL. 03-5837-7187 FAX. 03-5837-7188

リサイクルプラント RE-BORN2010

〒121-0836 東京都足立区入谷 9-8-9
TEL. 03-5837-3422 FAX. 03-5837-3424

文京支社 営業企画部/企画事業部 Re・Slim

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-33-4 エニス1 7F
TEL. 03-3868-8930/8933 FAX. 03-3868-8931

千葉支社

〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野 2-2
ホテルニューオータニ幕張 3階 TEL&FAX. 043-297-8826

代 表 者 代表取締役社長/二木玲子 代表取締役専務/羽田裕美子

役 員 氏 名 取締役/小林春美 監査役/二木和美

設 立 年 月 日 昭和 37 年 6 月 21 日

資 本 金 10,000,000 円

従 業 員 165 名 (平成 29 年 3 月現在)

事 業 内 容 東京都 23 区指定清掃事業・一般区域貨物自動車運送事業、
一般廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、
産業廃棄物中間処理事業、リサイクル事業、
ビル管理及び清掃事業、環境問題に関する企画提案及び
コンサルティング他、特定労働者派遣事業



主要取引先 東京二十三区清掃協議会 / 東京電設サービス株式会社

株式会社ニュー・オータニ / 株式会社 SUBARU

株式会社テーオーシー / エーザイ株式会社 / 株式会社高島屋

ライオン株式会社 / 東京理科大学葛飾キャンパス ほか

取引金融機関 みずほ銀行 亀有支店・金町支店 / 亀有信用金庫 水元支店 / リそな銀行 金町支店

保 有 車 両 東京都 23 区清掃事業部門 28 台

プレス車(4 m³)20 台・キャブオーバ(6 m³)3 台・軽小型ダンプ(300kg)5 台

一般廃棄物 13 台

パッカー車(8 m³)3 台・パッカー車(6 m³)2 台

パッカー車(4 m³)6 台・コンテナ車(8 m³)2 台

産業廃棄物 27 台

パッカー車(4 m³)1 台・プレス車(10 m³)1 台・プレス車(7 m³)1 台

コンテナ車(8 m³)3 台・コンテナ車(4 m³)1 台・ダンプ車(7 m³)1 台

バン(13t)3 台・キャブオーバー(12 m³)1 台・キャブオーバー(9 m³)3 台

キャブオーバー(8 m³)7 台・キャブオーバー(6 m³)2 台

軽小型車(300kg)1 台・糞尿車(1.8kg)1 台・糞尿車(3.6kg)1 台

(平成 29 年 3 月現在)

